

特集

磯部琇三さんを偲んで

作花一志（編集委員長）

去る1月19日に日本スペースガード協会の高橋さんからtenkyo.netに1通のメールが流れました。それは本研究会初代会長である磯部琇三さんご逝去のお知らせでした。その後メーリングリストに載った追悼メールを集め、磯部さんのご冥福をお祈りすることにいたします。なお1月20日の新聞に磯部さんのお別れの言葉が掲載されています。

1. 訃報

日本スペースガード協会・理事長 磯部琇三（いそべ しゅうぞう）氏におかれましては、平成18年12月31日（日）21時にご逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈りし、関係各位にお知らせ申し上げます。

尚、本人の強い希望により、葬儀は執り行われませんでした。

問い合わせ先：日本スペースガード協会
電話：03-3378-6450
副理事長 高橋典嗣

2. 磯部さんの事

酒井孝生（千葉市天戸中学校）

磯部先生にはお世話になりました。日教組の「全国教育研究集会」で「金星の満ち欠け」の指導について発表した翌年に「天文教育研究会」の第一回が行われた年でした。磯部先生から連絡をいただいて軽井沢にある駿台学園高校「一心荘」で「金星の満ち欠けの指導」について発表させていただきました。その後仕事の関係で天文教育だけに組み込まないまま随分時間が経ってしまいました。磯部先生がお亡くなりになったと聞いてもう一度天文教育について発表できるように勉強したいと思います。それが私にできる最大の供養だと

思います。連絡ありがとうございました。

3. 追悼・磯部琇三さん

茨木孝雄（杉並区立科学館 物理・地学室）

（わたしより適当な方が大勢いらっしゃるかと思いますが、フォローがないようなので一言）若い方はご存じないかもしれませんが、磯部さんは創立時の代表世話人であり、1993年12月まで初代会長をお務めになりました。それまでばらばらだった愛好家と教育関係者、職業的研究者の声をまとめて一つの力とした功労者です。天文台やIAUでの氏の立場もあったと思いますが、“普及”を入れるか入れないかの深夜の激論に居あわせた者としても、また実は結びませんでした。わたしにとっては、情報提供WGでの天文台・大学関係者のメンバーとして有益なご意見をたくさんいただいたことも懐かしく想い出されます。氏の天文教育・普及に関する持論は、『花と星』A flower and a star - An important aspect of human-being - (Teaching of Astronomy in Asian-Pacific Region Bulletin No. 7, 1993) によく現れています。

バラ星雲とバラの花の育成過程の写真を対比しながら語り始め、“星と花は単に美しいだけではなく、人間の存在理由に対する答えの可能性をも秘めているのです。”と、天文学や生物物理学の意義で結んでいます。科学館やプラネタリウム等普及施設のアミューズメント化が進行する時代へのアンチテーゼとして、ここで主張された内容の多くは今でも色あせない正論であると思っています。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

4. 天文教育普及について

山田幹夫(四国高松)

磯部さんがなくなられたそうですね。最近磯部さんのうごきが、声が聞こえませんでしたのはご病気だったのですね。ご冥福をお祈りします。その昔高校長を退職したころ、20年ほど前の話、専門学校校長をしておりましたが、星の学習の改革を1970年のころからずっと提案しておりました。地学教育などでの呼びかけでしたでしょうか。何かの呼びかけで天文教育の研究会の発足に浅間の山荘(駿台学園)に出かけました。確かそのころ縣さんが駿台学園高校に席をおかれていました。その関係でここで開催ということを知りました。その席でも天文教育という言葉が独り歩きをしておりました。普及という言葉の挿入を提案した一人です。磯部さんの思いは天文教育だけで、これに対して普及を入れるということは何人かが提案していました。その後愛知の会合でしたか、場所は忘れましたが、そこでも磯部さんに普及のことで何度か提案をしましたが、その向こう意気に圧倒され、それ以来遠ざかってしまいました。天文教育普及研究会、普及という言葉の意味がないがしろになっています。天文学教育の普及ではなく、天文学習の普及、星の学習のあり方を再考したいものです。

現在の小学校4年生、中学校3年の星学習はズタズタです。教科書を暗記すればそれで十分という時代です。

5. 小惑星 Isobe

作花一志(京都情報大学院大学)

tenyoML に思いがけない訃報が入ってびっくりしました。

ところで(7187) Isobe という小惑星がありますがこれは磯部さんに因んだものかどうかご存知ありませんか? 発見者は Palomar の Helin, E. F. とかですが。(図1参照)

寺菌淳也(財)日本宇宙フォーラム)

おそらくですが磯部さんに因んだものと思われま。生前、磯部さんは小惑星に名前をつけることに反対の立場をとっていましたが、アメリカの研究者からサプライズプレゼントとして名前を送られたということがあります(確か5、6年前だったと思います)。まあ、アメリカの研究者としては逆襲? のつもりだったのかも知れませんが。

佐藤 健(広島県廿日市市)

磯部さんご逝去の報、突然のことでびっくりしました。心からご冥福をお祈り申し上げます。小惑星(7187)Isobe について "Dictionary of Minor Planet Names, 5th Edition"(Springer, 2003)の p 581 に下記のようにあります。

「(7187)Isobe

1992 BW. Discovered 1992 Jan. 30 by E.F.Helin at Palomar. Syuzo Isobe (1942 -), of the National Astronomical

Observatory, has been instrumental in establishing the Bisei Spaceguard Center, an observatory designed for the observation of near-earth objects and earth-orbiting debris. He is also president of the Japan Spaceguard Association.

(M 43762)」

MはMinor Planet Circularの通ページで、これを含む号は2001年11月1日に発行されています。この日を命名発表日としてよいと思います。なお、2001年10月22-23日に倉敷市でスペースガードの国際会議が開催されましたが、その時、磯部さんへの贈呈式がありました。(記念の額を贈られたと思います。)MPCへの発表より前ですが。

吉川 真(宇宙航空研究開発機構)

磯部さんにつきましては、ご冥福をお祈り

いたします。磯部さんの名前が付いた小惑星の件について補足します。佐藤さんが書かれていますように、

なお、2001年10月22-23日に倉敷市でスペ-スガ-ドの国際会議が開催されましたが、その時、磯部さんへの贈呈式がありました。(記念の額を贈られたと思います。)

ということです。JPLのDon Yeomans氏から surprise として贈られたものです。Yeomans氏は磯部さんが小惑星に命名することに反対していたことを知らなかったもので、磯部さんの業績に対して善意で送ったものです。磯部さんの方も、この自分の名前が付いた小惑星については、固辞されていませんでした。(事前に話があれば固辞されたのだと思いますが、国際会議の場で突然発表されたものですし、相手は善意でそうしたわけですから、お礼を言って受け取っていました。)

6. 磯部琇三さんの思い出

齋藤和幸(日原天文台)

昭和60年口径75cmの望遠鏡を備える日原天文台が建設されました。そのきっかけは、当時の日原町長木村治さんが美しい星空を子供たちにみせ宇宙に夢を持たせたいと考え広島市子供文化科学館の佐藤健先生を訪ねたときでした。

そこに居合せた磯部先生から75cm鏡の話聞いた町長は小さな町に天文台を建設することにしたのです。

この望遠鏡は駿台学園の北軽沢に建設されたものの2号機として製作されました。製作には磯部先生をはじめ富田弘一郎先生にもご尽力をいただきました。

その後平成6年に完成した「星と森の科学館」の監修もストーリー作りから2年を掛けて製作いただきました。

その内容は、現在最も問題とされる環境問題を展示に取り入れ地球環境の重要性を学習

できる内容となっており、環境NPO関係の方からも好評を得ています。磯部先生は新しい方向性をいち早く行われた方でした。

平成17年8月日原天文台二十周年記念にはご家族で日原町にお越しいただき講演を頂きました。お嬢さんがファンだといわれる萩の町を案内させていただきましたのが最後となりました。

ご尽力ありがとうございました。

ご冥福をお祈りいたします。

7. 磯部さん

渡部義弥(大阪市立科学館)

「私が子どものころは、その川(堂島川)で泳いだものです」。そんな自己紹介から磯部さんの講演会をはじめました。講演のテーマはオリオン星雲だったはずですが、実は内容は全て忘れてしまい、冒頭だけが記憶に残っています。大阪市立科学館の星の友の会のための講演会でしたが、しかし、それでも、天文学者が自分たちの中から生まれるものなんだということはよく伝わってきました。

講演会が、天文学を身近なものにするためのものだとすれば、それは成功だったでしょう。この一件だけでなく、現在の職業につくずっと前から「天文学」を身近にしようと努力をする姿はずっと見えていました。子どものころたくさんの記事や本を書く天文学者の代名詞として。学生のときは、小さな大学の学生に天文学を学ぶチャンスを与える「磯部ゼミ」の主宰として。それはもしかして当人にとっては努力ではなかったのかもしれませんが。精力的に動く姿は、私をふくめ多くの人の刺激となったのは間違いありません。

8. 磯部さんの思い出

矢治健太郎(立教大学理学部)

磯部さんの名前を初めて知ったのは、確か高校時代に天文雑誌のインタビュー記事を見

てだったと思います。東大野球部の出身で、しかもキャッチャーだったとか、さらに、大学野球の審判の資格を持ち、テレビで野球解説もこなす。でも、その実体は天文学者というのに、「天文学者にこんな人がいるんだ」と思ったものです。その後も、NHKの天文関係の番組でお見かけしたのも覚えております。

そんな磯部さんに初めてお会いしたのは、大学3年のときに参加した中軽井沢での天文教育研究会でした。当時は、天文教育普及に関心を持つ学生は珍しかったので、いろいろ励ましていただきました。

磯部さんのメールはいつもサブジェクトがないので、顔を合わすたびに「せめてサブジェクトをつけて下さいよお。内容がわからなくて困ります」というと、「いや、やり方がわからなくてね。今度教えてくれます？」と返ってきました。当時のUNIXのメールコマンドではサブジェクトをつけるのにオプションが必要だったためです。

非常に強気な言動をされる方で、物議をかもしことも多かったですが、磯部さんなくしては、今の天文教育普及研究会はありえなかったものと思います。故人のご冥福をお祈り申し上げます。

9. 露天風呂での暑い戦い

尾久土正己（和歌山大学）

あれは1993年夏、福島で行われた第7回天文教育研究会だった。運営に苦勞している全国の公開天文台の手助けになればと、公開天文台ネットワークPAONETを提案し、実験を始めようとしていたときだった。

研究会で構想を紹介したあと、気分よく宿の露天風呂につかっていると、すぐ横に磯部さんがつかっていた。どちらが口火を切ったかまでは覚えていないが、私の発表した構想に対して批判をされたと思った私は、激しく反論した。そのころの私にとっては、磯部さ

んは、この業界の大先生であり、一方の私は業界デビューが遅かったせいもあり、磯部さんとの至近距離での対話など夢のような話であった。こうして、憧れの磯部さんとの夢の競演が露天風呂で実現したのだった。

当然のように経験豊かな磯部さんは、私の反論にあっさり反論されたわけだが、私の唯一の強みであった若さを武器に、畳み掛けるように反論した。いったいこの激闘がどうやって決着したかまでは覚えていないが、夏の露天風呂で戦いは約1時間にも及び、二人ともものぼせてフラフラになってしまったことは確かであった。夜のセッションの際に、会場を見渡すと、鼻血をティッシュでおさえている磯部さんの姿があった。

こうしてスタートしたPAONET、磯部さんに批判されることないよう頑張らねばと活動を行ってきた。その後も、私がPAONETの話で発表したときには、磯部さんから厳しいコメントをよくいただいていた。昨年6月、金沢で行われた宇宙技術の国際会議でPAONETの活動を発表しようとしたとき、ロビーで磯部さんの姿をみた。軽く会釈をしたところ、磯部さんからも会釈が返ってきた。PAONETのネタで発表するのもこれが最後かなと思っていたので、磯部さんの辛口コメントがくるのを不安とともに、半ば期待をもって発表の時間を待っていた。しかし、結局、磯部さんの姿は私のセッションの会場にはなかった。それが、私の見た最後の磯部さんだった。

露天風呂での暑い暑い戦いが私のその後の多くのプロジェクトを推進する原点になっていたのかもしれない。磯部さんの訃報を知ったとき、一番に露天風呂の暑さを思い出した。

本当にお世話になりました。

10. 磯部琇三さんの思い出

佐藤 健（広島県廿日市市）

昨年12月31日、本会初代会長・磯部琇三さんが永眠された。肝臓癌が原因とのことだった。64歳で「日本スペースガード協会理事長」をはじめ大活躍中だったので、さぞお心残りだったことだろう。

私が磯部さんと初めて知り合ったのがいつだったか記憶にないが、日原天文台の「夢幻…10年のあゆみ」に磯部さんご自身が次のように書いておられる。

「……広島市のこども文化科学館の佐藤健さんが広島市立の4m望遠鏡建設のアドバルーンを上げていて……確か1983年10月の事だったと思う。佐藤さんと話をするため広島に出かけた。しばらく話をしていると団体の方が訪れ、佐藤さんが私を紹介してくれた。島根県日原町の議員さん方の視察とのことであつた。…」

当時、海外の適地に口径7.5mの大望遠鏡を建設しようという案が持ち上がっており、「Japan National Large Telescope (JNL T)」の計画と呼ばれていた。

これは後に「口径8.2mすばる望遠鏡」として実現したが、磯部さん達はその実現のため精力的に動いておられた。併せて、国内に口径3m級の望遠鏡を設置する案も提案されていたが、私はこの程度の望遠鏡は地方自治体でも可能ではないかと考えた。それで、岡山天体物理観測所の口径188cm望遠鏡を製作したグラブ・パーソンズ社に問い合わせたところ、口径4m望遠鏡がドームその他全てを含んで50億円で可能だろうとのことだった。地方自治体の文化施設で建設費がこれより大きいものはいくらも前例があつたので、これを「大型案」とし、口径2.5mを「中型案」、口径1.2mを「小型案」とし、「大型案」が「国際平和文化都市広島」としては望ましいとして提案した。ただ天文学者の研究専用

では予算がつくことはまずないと思ったので、「午後10時位までは市民の観望用、それ以後は研究用」というハイブリッド方式を考え出した。口径4m案は「誇大妄想狂」と思われはしないかとの危惧がないわけではなかったが、磯部さんは真剣に受け止めて私に会いに来て下さったのだ。(清水実先生もご一緒だった。)

広島市の大天文台計画は、提案者代表になって頂いた村上忠敬先生がお亡くなりになつたりして結局実現しなかったが、その後、各地に続々と開設された。

公共天文台のうち大型の所ではこの「ハイブリッド方式」が普通になっている。これには磯部さんと、広島市出身で国際航業(株)の天文台コンサルティング担当だった山田義弘氏の力が大きかったのではないかと想像している。

ところで、日原町議会議員ご一行であるが、当時の木村治町長の町立天文台構想について、広島市の精密器械商会の猪原商会に意見を聞きに来ておられたのである。猪原社長から私に「天文台を作りたいという人がここに来ているけど、今からそっちに行ってもらっていいですか」と電話があつた。私は「今ここに天文台の大先生が2人も来ておられます。すぐ来て下さい」と答えた。このような全くの偶然によって、磯部さんの日原天文台建設とその後の施設増設や運営への支援が始まったのである。

1985年8月31日、「日原天文台」がオープンした。主望遠鏡は口径75cmコンピュータ制御式反射経緯台。口径7.5mとして構想されていた「JNL T」の10分の1モデルである。1999年に完成した「口径8.2mすばる望遠鏡」にはその後の技術開発の成果も入っているし、外形も全く同じというわけではないが、日原の望遠鏡はすばる望遠鏡の先行モデルと言ってよいだろう。

開台記念講演は私がたのまれ、接近を控えたハレー彗星について話したが、会場には磯部さんご夫妻に富田弘一郎先生と3人も天文学者がおられ、アマチュア出身の私としてはかなりのプレッシャーだった。しかし、私が間違っただけを喋ったり、私に答えられない質問が出たりしても3人の先生がサポートして下さると考え直し、かえって楽な気持ちで話すことが出来た。

1989年には広島市をメイン会場に、県内各地をサブ会場に「海と島の博覧会」が開催された。そのうち8月26日には(現・福山市)沼隈町で磯部さんに「未来を切り開く日本の巨大望遠鏡計画」、アリゾナ大学のトム・ゲーレルス (Tom Gehrels) 教授に「守るべき星・地球---小惑星探知計画と地球の未来」と題して講演して頂き、それらを受けてパネルディスカッションを行った。

その他、「天文教育普及研究会」と「日本スペースガード協会」の会合や「星空の街・あおぞらの街全国大会」等で磯部さんにお会いし、お世話になった。また、ご著書を何冊もお贈り頂いたほか、いろいろ情報を頂いた。

ご生前のご指導ご交誼に感謝申し上げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げると共に、奥様をはじめ関係の皆様にお悔やみを申し上げます。

11. 「故 磯部琇三 先生追悼の会」のご案内 高橋典嗣 (日本スペースガード協会)

当協会及びスペースガードセンターの創設者(前理事長)磯部琇三先生は、2006年12月31日20時46分永眠いたしました。ここに生前のご厚誼を深謝し謹んでご通知申し上げます。尚、本人の強い希望により、葬儀は執り行われませんでした。

つきましては、「追悼の会」を下記の通り執り行います。ご多忙中、誠に恐縮ですが、ご出席賜り、先生の生前を偲び、元気なお姿を

思い出したいと思います。

記

●日時 2007年3月4日(日)
14:00~15:00

●会場 工学院大学(新宿キャンパス)
アーバン・テック・ホール(3階)

誠に勝手ながらご香典、ご供花、ご供物の儀は固くご辞退申し上げます。尚、ご来臨の節は平服にてお越しくださいますようお願い申し上げます。

以上

2007年2月14日

特定非営利活動法人日本スペースガード協会
理事長 高橋典嗣
連絡先 日本スペースガード協会事務局

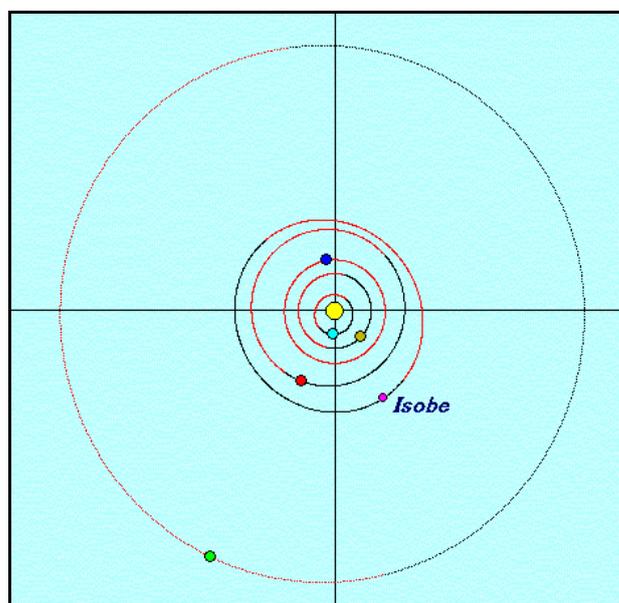


図1 2006年12月31日の惑星配置
内側から水星・金星・地球・火星・Isobe・木星